

健康 わんだーらんど Wonder Land



健康増進センター広報誌『健康ワンダーランド』です。今回は「C型肝炎」について取りあげてみました。

「C型肝炎」について

消化器内視鏡センター センター長 木下 昇



●ウイルス性肝炎とは

肝炎ウイルスには主にA型からE型の5種類があり、これらに感染するとウイルス性肝炎を起こします。特にB型とC型では、慢性的に炎症が持続する慢性肝炎を引き起こし、肝硬変や肝がんの原因となります。今回は最近治療法が非常に進んでいるC型肝炎について説明します。

●C型肝炎とは

C型肝炎とは、肝炎を起こすウイルス(C型肝炎ウイルス)が感染する事で起こる病気です。

●日本のC型肝炎の現状

現在、わが国の肝がんによる死亡者数は1975年以降、急増しており、2013年の調査では、30,175人(男性:19,816人, 女性:10,359人)が死亡し(図1)、肺がん、胃がん、大腸がん、膵がんに次いで多い死亡数となっています。

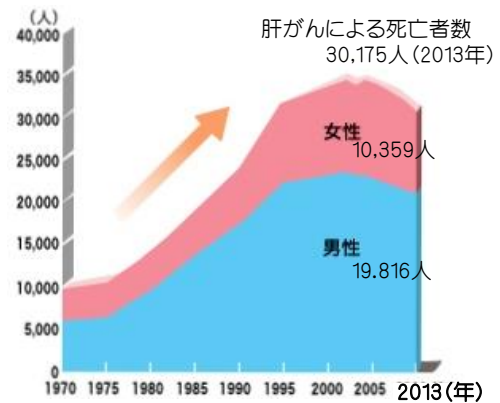


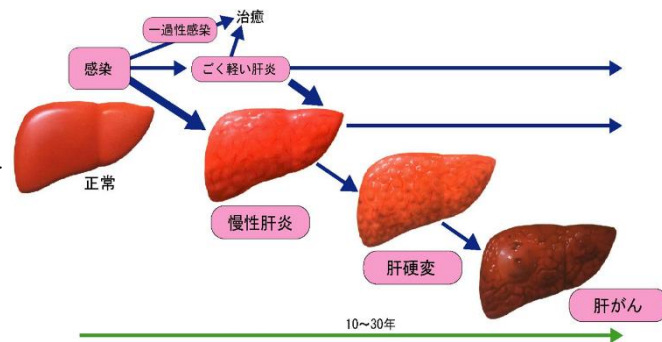
図1. 肝がん死亡者数の推移 (肝がん白書:2015年)

日本肝癌研究会の調査(2006年～2007年)によると、肝がん患者の実に80%が肝炎ウイルス感染例であり、そのうちC型肝炎ウイルスの感染例が約65%、B型肝炎ウイルスの感染例が約15%と報告されています。

また、C型肝炎にかかっている事を知らない人が全国で約80万人いると推定されています。検診などでC型肝炎ウイルス感染が指摘されているにもかかわらず、自覚症状が無いために医療機関へ通院していない人も約80万人いると言われています。肝臓は「沈黙の臓器」と言われており、知らず知らずのうちに肝炎が進行して、症状が出た時にはかなり進行してしまっていることも決して珍しくはありません。

●C型肝炎の自然経過

C型肝炎ウイルス感染すると約3分の1の人は初期の段階で自然に治癒しますが、6ヶ月以上にわたって肝臓の炎症が続き、慢性肝炎になってしまう人が約3分の2に見られます。慢性肝炎になると肝臓の細胞が壊れて肝臓の働きが悪くなってしまいます。



※治療しないと10～30年後に肝硬変、肝癌に移行しやすい

⇒ 次ページへ

図2. C型慢性肝炎の自然経過

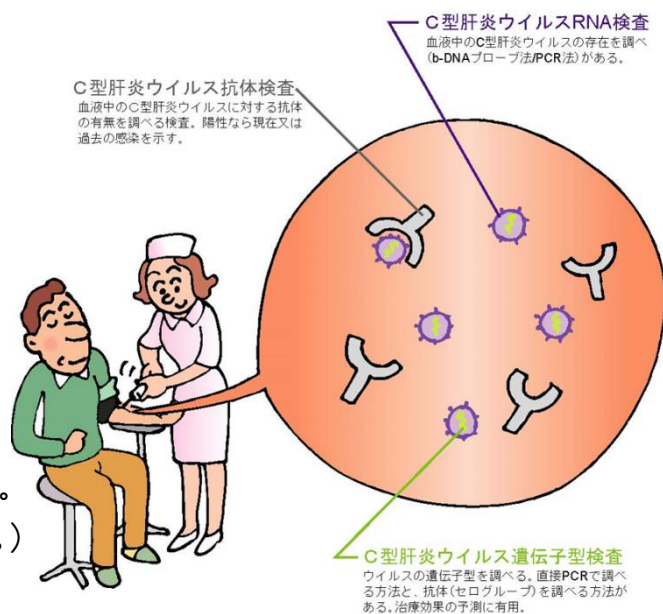
しかし、慢性肝炎には、これといった自覚症状がないのが特徴です。肝臓の細胞は、再生能力が高く、炎症で破壊されてもすぐ元に戻ろうとします。肝臓の細胞が破壊と再生を繰り返す間に肝臓は徐々に硬くなっていきます(肝線維化)。放置していると徐々に肝線維化が進行し、肝硬変になります。肝硬変からは最終的に肝がんができてきます(図2)。

●感染ルートについて

C型肝炎ウイルスは輸血などの医療行為が主な感染経路でしたが、様々な対策が進んだ現在ではこうした感染はほとんどなくなりました。C型肝炎ウイルスに日常生活で感染することはほとんどありませんが、最近ではタトゥーやピアス、覚せい剤の注射などによる針の使い回しや性交渉によって感染するケースが増えています。

●検査について

通常、肝機能検査では肝炎ウイルスの有無は分かりません。肝機能が全く正常であってもウイルスに感染している可能性があります。また慢性肝炎になっても自覚症状はないので、肝炎ウイルスに感染している事を知らないままだと適切な治療を受けられず、本来ならば防げたはずの肝硬変や肝がんの発症を招いてしまいます。そのため、一生に一度は肝炎ウイルス専用の血液検査を受ける事が大切です。(当センター人間ドックに肝炎検査は含まれています。)



●治療について

ウイルス性肝炎の治療は、主に抗ウイルス剤による薬物療法が中心となります。C型肝炎は治療によって体内からウイルスを排除することが可能です。以前はリバビリンの服用と週に1回のインターフェロンの注射で、およそ1年間、治療を行っていましたが、3人に1人しか治りませんでした。しかし、現在はこれらの薬にウイルスの増殖を抑えるプロテアーゼ阻害剤という新薬を加えた3種類の薬を組み合わせることで、治療期間が6ヵ月に短縮されただけでなく、それによって5人のうちに4人以上が治るようになりました。つい最近、ウイルスの種類や遺伝子変異の状態によってはインターフェロンを使わず、飲み薬だけの治療ができるようになってきました。さらに数年以内には治療期間がより短い3ヵ月の飲み薬でほとんど全員が治る時代がきます。副作用はほとんどなく、誰でも治療が可能になると思われます。

●医療費の助成制度について

C型肝炎の抗ウイルス治療については、国が行っている医療費の助成制度があり、原則として月に1万円の自己負担で治療を受けることができるなど、治療しやすい環境の整備が進んでいます。

●最後に

いよいよC型肝炎撲滅時代の到来です。しかし、これは病院を受診して治療を受けた人に限ります。その意味でもぜひ一度、肝炎ウイルスの検査を受けて、C型肝炎の疑いがあれば専門医を受診し、肝硬変や肝がんを命を落とさないようにしましょう。

『人間ドック健診施設機能評価』 の認定更新が承認されました



本年4月、佐世保中央病院健康増進センターは、人間ドック学会による健診施設機能評価の認定更新が承認されました。この人間ドック健診施設機能評価制度は、健診施設の質の改善を促進することで、受診者が安心して健診を受けられることを目的としたもので、平成16年9月より開始されています。これまでに全国で308施設が認定され(平成25年4月時点)、長崎県内では当施設を含め2施設が認定されています。

当センターは、5年前に認定され、今回初めての更新となりましたが、約一年前より準備委員会を立ち上げスタッフが丸となり、機能評価受審に向けて施設内の整備を進めてまいりました。

本年2月20日に審査員による訪問審査を受け、ハード面ソフト面、取り組みやサービスの質の高さなど、定められた基準をすべてクリアし、4月1日 健診施設機能評価の認定が正式に承認されました。

JAPAN SOCIETY OF NINGEN DOCK
日本人間ドック学会

人間ドック健診施設機能評価

【目的】
本評価は、人間ドック健診施設の評価を行い、**質の改善活動を促進し、受診者が安心して健診を受けられることを目的とする。**自己評価および専門教育を受けた調査員による実地調査の結果により施設認定と質の改善のための助言を行う。

【評価基準】
本評価基準 (Ver. 3) では、

1. 施設運営のための基本的体制
2. 受診者の満足と安心
3. 人間ドック健診の質の確保

の **三つの領域が設定されている。**

今回受審したVer.3版より、審査規定において重視されるようになったプライバシーへの配慮や人間ドックと他健診の区分けにつきましては、計測コーナーの個室化、人間ドックラウンジの開設により改善いたしました。また、受診後のフォローアップ体制やきめ細やかな保健指導については、「全国的に見ても素晴らしい取り組みである」との高い評価をいただきました。

センターが開院して約11年が経ちますが、おかげさまで、年々多くの皆さまにご利用いただくまでになりました。今後も、地域・職域の方々の疾病予防と健康づくり機関として、皆さまのお手伝いのできればと考えています。

本認定を受け、受診者の皆さまに更に安心して満足していただける人間ドックおよび健康診断を提供させていただこうと職員一同気持ちを新たにしております。

今後とも、当健康増進センターをご利用いただきますようよろしくお願い申し上げます。



評価の詳細な内容はインターネットでもご覧いただけます。
人間ドック学会 : <http://www.ningen-dock.jp/list>

佐世保中央病院 健康増進センター 基本理念と基本方針

【基本理念】

受診者の健康を支援し、活力のある地域社会の実現に貢献します。

1. 生活習慣病の早期発見と予防の啓発に努め、健康の維持・増進をサポートします。
2. 検査技術や診断機器の精度向上を常に心がけ、質の高い検診を提供します。
3. 特定健診・保健指導を通して、受診者のライフスタイルを考えた継続的な支援を行います。
4. すべてのスタッフが相互に協力・連携して、受診者の皆様に満足いただけるサービスを提供します。
5. 健診業務で得られた個人情報の守秘義務と、受診者ご自身の知る権利を遵守します。

健康増進センター 診察担当医

	月	火	水	木	金
午前診察	常勤医： 中尾・寺園・本多・永尾 非常勤医： 田中・石田				
午後診察	※ 毎日3～4名の医師が担当いたします				
乳がん検診	佐々木	内田	佐々木	碓	鍬尾
婦人科検診	石丸	石丸	石丸	石丸	石丸

健診に関するご予約・お問い合わせについて

☆健診をご希望の方は、**完全予約制**になっておりますので、健康増進センター窓口にお越しいただくかお電話でのご予約をお願い致します。

○お問い合わせ時間

月～金曜日 9:00～12:00 13:00～16:00

○休診日 土・日曜日、祝日 8月14日～15日（夏季） 12月30日～1月3日（年末年始）

【健康増進センター直通】

電話番号 (0956)33-5335

FAX番号(0956)33-5336

メールアドレス sch-kenkoh@hakujujikai.or.jp

*ただし、メールでのお申込は受け付けておりません。



編集後記

今回の“健康ワンダーランド”では、「C型肝炎」について、担当医師から詳しい情報提供を行わせていただきました。ご参考いただければ幸いです。

猛暑が続いていますが、この夏の熱中症対策、体調管理にご留意ください。

次回発行日は、本年10月頃(秋号)を予定しています。どうぞご期待ください。

